



三重テレビ放送 (独U)

<CHANGE FOR THE BLUE in みえ>

海ごみ問題を県内で考えるきっかけを提供し、県民全体が海ごみ問題に関心を持ち、きれいで豊かな海を次世代に残すために取り組みを行っている。志摩市は昨年教育プログラムでの連携を足掛かりに今年は教育・調査・アクション (スポGOMI) の連携を実施中。「教育プログラム」は三重県環境生活部からも好評で、現在志摩市、尾鷲市、菟野町の各教育委員会と行った。「オリジナルペットボトル回収BOX」「事業所連携」「映像制作放送」などを通じて、当初の目標である8,000人以上の人たちにこの事業に接することができた。

2022年度 実施状況について

■資源循環、ポイ捨て削減

<課題・背景> 公共の場におけるペットボトル資源循環について、実態を調査し、改善の手立てを探る



全国清涼飲料連合会の開発したペットボトルに特化した容器回収箱を利用し、「三重の海、海洋生物をモチーフ」としたペットボトル専用回収箱を制作。近鉄鳥羽駅、鷺方駅、賢島駅などに設置し、設置前と後で異物の混入などがどう変わったかを調査した。調査にあたっては、東京工業大学でゴミの分別などの社会問題を専門としている高橋准教授に協力を仰いだ。

<連携先>
三重県・近畿日本鉄道・近鉄ファシリティーズ、全国清涼飲料連合会、東京工業大学環境・社会理工学院地球環境共創コース

■みえ海ごみ教育プログラム

<課題・背景> 海の現状について小学生を対象に授業を行い、自分たちの世代に豊かな海を残すために考えるきっかけとする。



三重県と協力して「海ごみ」に関する動画を制作し、志摩市、尾鷲市、菟野町の小学校で「海ごみ教育プログラム」を実施した。授業では、私たちの生活においてどれだけ海が密着した存在であるか、その海で今どんなことが起きているかを動画とワークシートを使って出前授業を行った。また、実際に海に流れ着いたゴミなども見せて、陸をはじめとした様々な所からごみが海に流れていることを実感してもらった。

7/11 志摩市立浜島小学校
11/8 尾鷲市立宮ノ上小学校
11/17 志摩市立大王小学校
12/14 菟野町立鷺川原小学校

■清掃活動・広報物配布

<課題・背景> バイオマスごみ袋を使ったプラスチック資源削減への意識付け、スポGOMI大会開催によって市民に海洋環境への関心をもってもらう。



スポGOMIみえシリーズとして、2022年10月～11月にかけて、尾鷲市・伊勢市・志摩市と連携してごみ拾いの大会を実施した。いずれの回でも地元の人たちを中心とした参加があり、「地元のをきれいにしよう」という機運が高まった。また、志摩市では、全16,000世帯にオリジナルバイオマスごみ袋を配布。(燃やせるごみ専用) 配布の際に「バイオマス」に関するリーフレットを入れ、アンケートに答えてもらうことで、海洋環境やバイオマスについての意識の変化を調査した。

<実施時期>
2023年2月～3月

■事業所連携・映像制作

<課題・背景> 三重県内の事業者と連携し、事業所職員および関係者に海洋環境問題への意識付けとなるような事業を行った。



三重県産業廃棄物対策課が進めている「みえスマートアクション宣言事業所登録制度」に登録している事業所と連携して、海洋環境問題への意識付けを広く行うためのモデル事業開発に取り組んだ。その他、「チェンジフォーブルーみえ」の事業について動画を制作し、放送した。

<連携先>
三岐通運・アルファ・オーシーエム東海
<放送期間・回数>
2022年5月～2023年7月
10本制作放送

メディア露出



5/21 (土) 「みえの海やに! ~みえの海の “いま”を知り・考える~」三重の海が今抱えている問題、海ごみの増加、海水温の上昇などについて、日本財団の海野光行常務理事と三重県の一見勝之知事に対談いただき、番組として放送しました。



スポGOMI大会2022in尾鷲掲載
10/16紀勢新聞
10/18南海日日新聞



10/15「FNN NEWS ONE」東海テレビのニュース内で尾鷲市のスポGOMI大会の様子が放送されました。

2022年度の課題とこれからの展望

海ごみ教育プログラム、事業所連携、清掃活動などによって、三重県民の海洋環境を中心とした海の諸問題への意識を高めることはできたが、どうしたら海に流れ着くごみを減らすことができるのか? 根本を解決に導く具体的な事業の必要性を痛感した。河川のごみ調査、漂着物調査などを通じて、根本解決への具体策を探ってきたい。